



慶應義塾大学ビジネス・スクール

マイクロフロッピーの規格競争

フロッピーディスクドライブの歴史

5

フロッピーディスクドライブの事実上の最初の製品は、1970年にIBM社が大型コンピュータ370モデルに発売したディスク装置IBM3330への各種のプログラムの読み込みのためのものであった。それは、イニシャル・プログラムの読み込みと故障診断プログラムの読み込みのためのフロッピーディスク装置IBM23FD-IIであった。

10

その後、72年に80欄のパンチカード代替としても同装置を利用することになり、片面の直径8インチのフロッピーディスク装置（fdd、装置）で記録容量が400KバイトのIBM33FDは発売した。

76年になると、米国のシュガート社が5.25インチ径の小型のFDとFDDを発売。それはIBMの8インチとは互換性がないFDD SA400であった。しかし当時から発売されだしていたパソコンの普及に従い、急速に市場を拡大した。この製品は8インチと同様、片面記録で80Kバイトの記録容量と小さいものであった。記録方式は単密度記録でトラック数も8インチと同様48TPIであった。トラック密度が同じだったのは8インチと同じ磁気ヘッドを利用していたためである。

20

次ぐ81年には日本の提案（NTTとYEデータ [安川電機の関連会社]）で8インチのフォーマットをそのまま取り込んだ、記録容量1.6Mバイト（MB）の5.25インチのFDDが開発され、ヒットしたIBMのパソコンPC/ATに搭載された。

25

その後の新製品の展開は小型化と高密度化であった。

高密度化への方法は、片面記録から両面記録へ、トラック数の増加、記録方式の変更など8インチのFDDも5.25インチのFDDの類似の傾向を辿ってきた。

30